令和３年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

Ⅰ　スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
Ⅱ　マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
Ⅲ　スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
Ⅳ　日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
Ⅴ　スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【　茨城県　】

学校名【　古河市立名崎小学校　】

１ 実践テーマ	Ⅱ
２ 実施対象者 （学 年・人 数）	６学年７１名　　教職員１０名
３ 展開の形式	（１）学校における活動 ① 教科名（　道徳　） ② 行事名（　グローバルとおもてなしの心　講演会　） ③ その他（　　） （２）地域における活動 ① イベント名（　　） ② その他　（　　）
４ 目　標 （ねらい）	「グローバルマナー」や「おもてなしの心」の大切さについて学ぶことを通して、相手意識、ボランティア精神の醸成を図る。
５ 取組内容	１　講演（体育館） （１）日時　令和３年１０月１４日（木）５時間目 （２）対象　６学年児童、教職員 （３）講師　筑波大学客員教授　江上　いずみ　先生 （４）講演内容 ア　演題 「グローバルとおもてなしの心 ～名崎小学校の子供たちとしてさらに輝くために～」 イ　内容 〇表情・・・表情を作るポイント→目、口角 〇笑顔は１円もかからないおしゃれ 大切なことは「アイコンタクト」 目→物→目の受け渡し　「分離礼」 〇相手への気遣いと言葉かけ ある人への「１番」は、他の人への「１番」とは限らない。 →その人にとって「１番大切なもの」とは何かを考える。 ※相手を傷つけない言葉かけ 〇笑顔と笑声、態度、身だしなみ ※明るい印象・・・姿勢をよくする。胸をはる。 視線をあげる。 〇ＣＡの皆さんが日頃行っている握手やノックの仕方などを具体的に学ぶことができた。

２　事後指導

（１）ふり返りと「川柳」による感想

講演会を通して、学んだことや考えたことについて「川柳」にし、児童に表現させ、茨城新聞社に投稿した。

１１月２７日（土）の茨城新聞ワイドひろば川柳のコーナーに２名の児童が掲載された。

「うれしいなもてなされると笑顔咲く」
「おもてなし和食のおいしさ教えたい」

（２）「分離礼」の広がり

講演後、６年生の間でマスク越しということもあり、「笑顔」はもちろんであるが、「笑声」も増え、相手を傷つけない言葉がけが自然に出るようになった。また６年生の間では、「分離礼」が広がった。入試のための面接練習では、面接の始めと終わりが「分離礼」で統一されていた。

	３　オリンピック・パラリンピックコーナーの設置 　オリンピック・パラリンピックに関する書籍を学校図書館に整備した。今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されたのもあり、児童に人気のコーナーとなった。 　また、今年度は「おもてなしの心」を中心に「心の教育」に取り組んだ。そのため、「相手へのおもてなし」「心の教育」を扱った書籍も一緒に設置し、いつでも誰でも触れられるように整備した。児童一人一人だけではなく、職員の意識付けにも役立てた。
６ 主な成果	・読書の時間、オリンピック・パラリンピック関連の本を読む児童が増えた。 ・「おもてなしの心」「相手へのおもてなし」「心の教育」を中心に取り組んだことにより、オリンピックだけではなく、パラリンピックに対しての興味・関心が大きく高まった。 ・特に高学年において、障害のある人も障害のない人も同じ社会で生きている（共生社会）について考えることができた。 ・挨拶をする際、立ち止まって相手を意識した「分離礼（言葉を発した後に礼をする）」をする児童が増えた。
７ 実践において工夫した点（事業の特色）	・講演以外の学校環境にオリンピック・パラリンピックを迎える側としての「おもてなしの心」への興味・関心が高まる環境作りを行った。 ・単発な行事に終わらせないよう、振り返りの時間を必ず設けた。学んだことや考えたことを川柳などに書かせたり、発表させたりすることで今後の生活に生かせるようにした。 ・国語や道徳、総合的な学習の時間、学級活動などに関連させ、教科の横断的な学習を進めた。
８ 主な課題等	・コロナ禍であったため、内容の精選及び実際の取り組み等が制限されてしまい、やりたいことがなかなかできなかった。 ・単発的な講演会だけに終わらせないよう、オリパラ教育をいかに学校教育のカリキュラムに位置付けていくかが課題である。 ・本事業の学びと各教科との関連を意識したカリキュラムを作成し、実践していく必要がある。
９ 来年度以降の実施予定	・今後もオリンピアンやパラリンピアンを招聘するなどの「本物に触れる体験」を通して、目標に向かって努力することのすばらしさや大切さを学ばせていきたい。 ・今年度の講師とは、来年度以降も交流を続けながら児童が生き生きと活躍し、心豊かになるよう、今後もオリパラ教育を進めていく。そのために教員側の意欲の向上にも努めていく。